

保護者の期待や不安に応える保護者支援の工夫

—幼保小間の連携を側面から支える—

松下裕子

近年、幼稚園や保育園から小学校への接続を円滑にするための「幼保小連携」が注目されている。子どもたちの連続的な成長を保障する観点から、幼稚園・保育園・小学校の連携が重要である。その連携を進める上で、保護者と学校が手を携えて協力することは必要不可欠である。

本研究は、保護者が抱える小学校生活への不安を軽減し、小学校と保護者の連携を進めることを目的としたものである。

入学前後の保護者に対する支援の一方策として、構成的グループエンカウンター（以下SGEと省略）やアサーションを活用した懇談会および子育て講座を提案する。そのためのプログラムや講座内容を検討し、研究協力校や要請訪問園の実践を通して検証した。この活動は、保護者の不安感を軽減し安心感を高めるとともに、保護者同士や保護者と教師のリレーション形成についての有効性が認められた。

〈キーワード〉 保護者支援、構成的グループエンカウンター、アサーション、連携

I 主題設定の理由

数年前より、小学校での授業や活動に適応できないという「小1プロブレム」が問題視され、子どもたちの連続的な成長を保障していくためには幼保小の連携が必要であると、各地で取組みが始められている。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」（いずれも2008年）にも、幼保小連携推進に関する内容が盛り込まれた。

さらに、平成21年3月に文部科学省および厚生労働省より「保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集」が公開された。連携の必要性として、「保育所や幼稚園等から義務教育段階へと子どもの発達や学びは連続しており、幼児期の教育と小学校教育とは円滑に接続されていることが望ましい」と述べている。連携により期待される効果として、「子ども同士の交流活動」「教職員の交流」「保育課程・教育課程の編成、指導方法の工夫」の3点を挙げている。事例集には各地での取組みによる様々な成果が参考として報告されている。各地の取組みによる成果の一方で、課題も明らかになった。その中で注目した課題は、『家庭との連携』や『保護者の期待や不安に応える子育て支援』等、保護者の視点からも考えていく必要がある」（山口県）、「幼児・児童や教師同士の交流だけでなく、家庭教育との連続性を考えなければならない。そのためには保護者の視点を計画に反映させていく必要がある」（東京都中央区）である。どちらも「保護者の視点」からの課題を挙げている。

本研究の事前調査として、平成21年度、大野市内の小学校1学年担任に、児童の様子や幼保との連携の取組みについて電話による聞き取り調査を実施した（11校中7校）。その結果、どのクラスも落ち着いて学習しており、連携に関しては地域性を活かして取り組んでいることが分かった。反面、気がかりな点として以下のようなことが指摘された。「園区が広域自由化し卒園児が多様な小学校へ入学する状況にある昨今、入学したての段階では児童同士や保護者同士のつながりがほとんどない。そのため、ささいなけんかななどのトラブルの解決に時間がかかったことがある。また、たった1人で全く知り合いない小学校に入学してくるケースもあり、保護者の不安感が大きい。」

前出の文部科学省及び厚生労働省より出された事例集においても「子どもだけでなく保護者も安心して子どもの入学を迎えることができるよう、小学校における学習や生活について情報提供するなど、保護者に対しての支援も大切である」との認識が示されている。安心して子どもの入学を迎えることがで

きるためには、小学校と保護者との連携が不可欠であることは言うまでもない。しかし、そのための具体的な支援は現状ではまだ手探りの状態である。

そこで、入学に向けて高まる期待と不安に配慮し、保護者同士や保護者と教師とのリレーションを形成するにあたって、S G Eやアサーションを活用した保護者支援をすることが有効なのではないかと考え、本研究主題を設定した。

II 研究の目的

入学前後の保護者の期待や不安に応えるために、S G Eやアサーションを活用した保護者支援の在り方を探る。

III 研究の方法

1 入学前後における保護者の意識調査

- (1) 大野市有終西小学校第1学年保護者を対象にしたアンケートの実施
- (2) 開成保育園年長組保護者を対象にしたアンケートの実施

2 S G Eやアサーションを活用した保護者支援の内容検討

- (1) S G E訪問研修ユニットの作成
- (2) S G Eやアサーションを活用した保護者懇談会や子育て講座の内容検討

3 保護者懇談会や子育て講座の実施および考察

- (1) 小学校第1学年保護者懇談会の実施
- (2) 小学校第1学年P T A親子行事の実施
- (3) 懇談会実施後の保護者の意識追跡調査
- (4) 保育園年長組子育て講座の実施

IV 研究の内容と考察

1 入学前後における保護者の意識

- (1) 大野市有終西小学校第1学年保護者を対象にしたアンケートの実施

本校は市の中心に位置する中規模校である。ここ数年市街地の空洞化に伴って児童数が徐々に減り、現在は1学年1ないし2学級で構成されている。周辺に公立・私立幼保が設置されており、校区を問わず毎年様々な園から児童が入学している。今年度の1学年在籍児童40名は10園（私立幼稚園2園、公私立保育園8園）から入学してきた。

- ① 実施対象 大野市有終西小学校第1学年保護者懇談会参加者（回収22名）
- ② 実施時期 平成22年6月
- ③ 調査内容 園選びの理由や入学に向けての心配事など（複数回答）
- ④ 結果と考察

園選びの理由を尋ねたところ、「園の方針や活動内容が良かったから」が59%と上位を占めていた。保護者に保育や教育内容を重視する傾向が強いということが、様々な園から入学する実態にも影響を与えていると思われる（図1）。

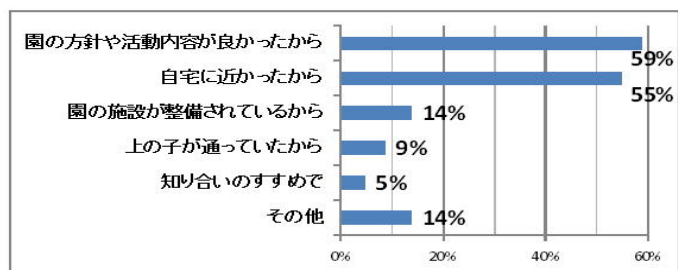


図1 園選びの理由（複数回答）

入学に向けて何が心配だったか尋ねたところ、「授業に集中できるか」「先生の話聞くことができるか」など授業に関する心配事と、「いじめにあわないか」「友だちができるか」など友人関係に関する心配事が上位を占めた。授業に関することと友人関係に関する不安が大きいことが読み取れる（表1）。

表1 入学の心配事（複数回答・上位5つ）

1. 授業に集中できるか（73%）
2. いじめにあわないか（59%）
3. 友だちができるか（55%）
4. 先生の話聞くことができるか（50%）
5. 自分の物を片付けられるか（50%）

(2) 開成保育園年長組保護者を対象にしたアンケートの実施

本園は大野市の市街地に位置する民間保育園である。近くに大規模の小学校がありそこに入学予定の子どもも入園してくるが、近年、近隣の校区や郊外からの入園も増えてきている。年長組は2組から構成されている。

- ① 実施対象 開成保育園年長組保護者（回収26名）
- ② 実施時期 平成22年11月
- ③ 調査内容 園選びの理由や入学に向けての心配事など（複数回答）
- ④ 結果と考察

園選びの理由を尋ねたところ、「園の方針や活動内容が良かったから」が42%、「知り合いのすすめで」が31%と上位を占めていた。有終西小学校同様、保護者が保育や教育内容を重視し、知り合いからの情報を得るなどして園選びをしている実態が見えてくる（図2）。

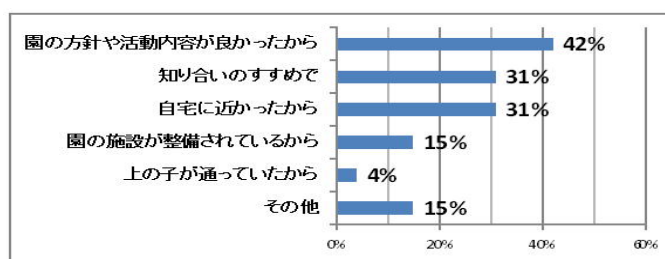


図2 園選びの理由（複数回答）

入学に向けて何が心配か尋ねたところ、小学校同様、授業に関することと友人関係に関する心配事が上位を占めた（表2）。また、第1子の保護者数名が、心配事をほぼすべてに挙げていたことも特徴的だった。やはり、初めての子どもは保護者にとって特に心配が大きいことがうかがわれた。

表2 入学の心配事（複数回答・上位5つ）

1. 授業に集中できるか（67%）
2. いじめにあわないか（50%）
3. 友だちができるか（50%）
4. 先生の話聞くことができるか（46%）
5. 自分の思いを伝えることができるか（42%）

ベネッセ教育研究開発センターの「第3回子育て生活基本調査 幼児版」（2008）によると、「幼稚園・保育園選びで重視したことをたずねたところ、5年前に比べ『しつけがしっかりしている』『保育内容・教育内容がよい』『見学のときの印象がよい』『園長や先生が信頼できる』という回答が増加した」という結果が報告されており、全国的にも園選びには自宅に近いだけでなく内容を重視する傾向があることが分かる。このことが1つの小学校に様々な園から入学してくる一因になっており、幼保小の連携の必要性が高まっているものと考えられる。

2 SGEやアサーションを活用した懇談会や子育て講座の内容検討

(1) SGE訪問研修ユニットの作成

人間関係に困難を感じる子どもが増えている今、子どもたちの人間関係づくりに効果があるとしてSGEが注目されている。ここ数年、その良さを体験したいという要請訪問の依頼が定着しており、SGEの訪問研修ユニットを作成した。

① 研修ユニットのねらい

SGEはふれあいの促進と自己発見をねらいとする集団体験学習である。児童・生徒だけでなく、教師集団や保護者会など様々な場面で集団と個を育てる方法を身につけ、児童・生徒の学校生活不適

応の予防を図ることをねらいとした。

② 研修ユニットの具体例

研修ユニットの構成は、SGE概説（20～30分）と演習（エクササイズ講習 30～90分）の2本立てとした（図3）。要請訪問には、依頼側のねらいに応じたエクササイズを体験してもらった（図4）。

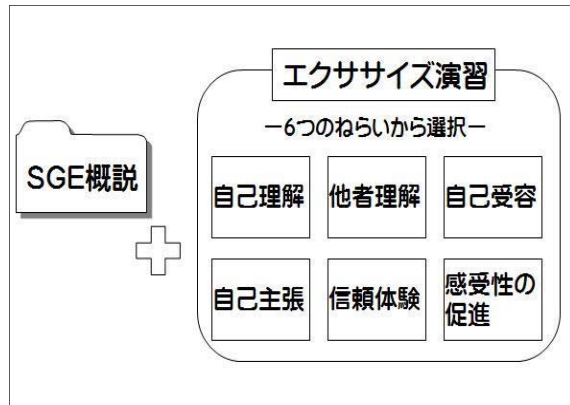


図3 研修ユニットの構成

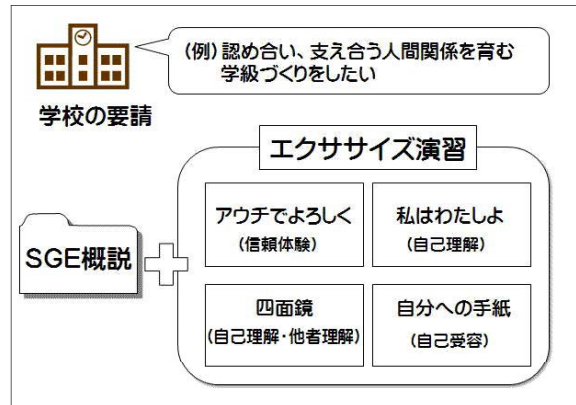


図4 要請訪問の例

(2) SGEやアサーションを活用した保護者懇談会等の内容検討

① 第1学年保護者懇談会

入学後間もなく保護者懇談会が開催され、担任を交えて保護者同士が自分の子どもの心配事を話し合う活動が行われることが多い。そこで、SGEを活用した保護者懇談会のプログラムの内容を検討した。

ア 対象：第1学年保護者・担任

イ ねらいに沿ったエクササイズを選択とアレンジ

保護者同士の関係が浅いと考えられるので、リレーション作りをねらいとしたエクササイズを中心に選んだ。エクササイズの内容を軽いものから負荷のかかるものへと流れるよう配慮した（表3）。

表3 選んだエクササイズ

エクササイズ	活動内容とねらい
1. バースデーライン (感受性の促進)	「誕生日チェーン」をアレンジする。言葉を使わないで自分の子の誕生日で円を作る。初対面同士が抵抗なく参加し、自分の子と同じ月齢の保護者が集まることで親近感がわくことをねらいとする。
2. ネームカードで自己紹介 (他者理解)	「ネームカードで自己紹介」をアレンジする。隣のペアで自分の子の写真が貼ってあるネームカードを使って自己紹介をし、全員の前で相手の人を互いに紹介する。自然に楽しみながらリレーションができることをねらいとする。
3. クイズ ○○先生って どんな人？ (他者理解)	「先生ってどんな人？」や「○かな？×かな？」を参考にする。担任が自己に関するクイズを出して保護者が答える。担任が自己開示することで、保護者が担任の人間性に触れ安心感が生まれることをねらいとする。
4. 我が子自慢で自己紹介 (自己理解・他者理解)	「ネームカードで自己紹介」をアレンジする。自由に歩き回りできるだけ多くの人と挨拶を交わし、自分の子の良いところを1つ紹介する。保護者同士が互いに顔と名前を覚え合い、自分の子の良さも再確認することをねらいとする。
5. 何が出るかなトーキング (他者理解)	「サイコロトーキング」をアレンジする。サイコロでは同じ目が出てしまうのでカードを活用した。心配事を6つのテーマに分け、1人目がカードをめくり、その話題で全員が一言ずつ話す。全員が悩みを話せることをねらいとする。

② 第1学年PTA親子行事

1年生が学校生活に慣れたころ、PTA親子行事が開催されている。有終西小学校PTA学年委員より、レクリエーションの他に親子同士のリレーションを深めるためのSGEを取り入れたいとの要望があり、エクササイズを選んで、内容を検討した。

ア 対象：第1学年児童・保護者・担任

イ ねらいに沿ったエクササイズを選択とアレンジ

親と子が楽しく遊びながら触れ合うことをねらいとしたエクササイズを選んだ（表4）。

表4 選んだエクササイズ

エクササイズ	活動内容とねらい
1. アウチでよろしく！ (信頼体験)	レベル1として「アウチ」と言って指と指を合わせた後に自己紹介をする。レベル2は「よろしゲー」と言って拳を合わせた後に好きな食べ物を伝え合う。レベル3は「ハイタッチ」と言って掌を合わせた後に好きな教科を言う。（親は小学生時代を思い出して言う。）親と子が一堂に会するのは初めなので、ウォーミングアップとして緊張している心と身体をほぐすことをねらいとする。
2. ジャンケン列車 (自己理解・他者理解)	ペアでジャンケンをし、負けたら相手の肩につかまる。最後には1列の列車になる。親と子が体育館でのびのび動き回り、リレーションをつくることをねらいとする。
3. なんでもバスケット (自己理解・他者理解)	普通は椅子に座って移動するが、クラスの親子の触れ合いを深めるために、保護者が椅子代わりになり児童はその膝に座るようアレンジする。鬼になった児童が指令を出したらそれに当てはまる児童が移動して別の親の膝に座り、お互いに自己紹介をする。保護者と児童のリレーションをつくることをねらいとする。

③ 保育園年長組子育て講座

入学準備が始まるころ、年長組の保護者は期待や不安が増してくる。開成保育園よりそうした保護者対象の研修要請があり、エクササイズと講義という構成で子育て講座を計画した。

ア 対象：年長組保護者・保育士

イ ねらいに沿ったエクササイズを選択とアレンジ

保護者同士が安心して話し合うことをねらいとしたエクササイズを選んだ（表5）。

表5 選んだエクササイズ

エクササイズ	活動内容
1. 仲間集まれ (他者理解・自己理解)	「仲間あつまれ」をアレンジする。テーマ「好きな飲み物」に合った者同士が集まり理由を話し合う。年長組の保護者同士の偏りをほぐして、テーマに合った者同士が集まることで新たなグループをつくることをねらいとする。二つ目のテーマは「入学予定の小学校」とする。その後のエクササイズに活用できるグループ分けとなることをねらう。
2. 小学生なりきり自己紹介 (他者理解)	自己紹介と自分が小学生の時に見ていたテレビ番組や好きだったキャラクターを話す。自分を振り返ったり、集まった保護者同士の世代が互いに分かったりすることをねらいとする。
3. 何が出るかなトーキング (他者理解)	表3の第1学年保護者会のエクササイズと同じ方法で行う。

ウ アサーションをテーマとした講義「親と子のよりよい関係づくり」の設定

〈設定理由〉

事前打合せの中で、開成保育園年長組担任から保護者に対する気がかりな点の指摘があった。それは、「子育てに完璧を求めすぎ、子どもをコントロールしようとする保護者がみられる」ということであった。入学前に園や学校から「就学までに身につけたい力」等のリストが示されるが、保護者によっては、子育てに懸命になればなるほど不安が増大し、自分も子どもも縛りつけ子どもを追い詰めることが懸念される。また、子どもにとって不安やストレスを感じやすいこの時期に、不安感を持ったまま接することは子どもにも良い影響を与えることはないと考える。

以上のことから、子どもが自信をもって新しい環境に溶け込むために親子のコミュニケーションを見直す必要があると考え、講義「親と子のよりよい関係づくり」を設定することにした。

〈アサーションをテーマとした講義内容〉

アサーション研究の第一人者である平木（2010）は「新学期を前にお子さまが不安などを感じている場合、保護者が接し方を見直してみてもは？」と提案している。アサーションとは「自分が言いたいことを自分なりに明確にして相手に素直に伝えると同時に、相手の話に耳を傾け、気持ちや考えていることを分かろうとするコミュニケーションの考え方や方法のこと」である。

アサーションの考え方が保護者に分かりやすいようにスライドを作成した。自己表現には3タイプがある（図5-①）。平木は、「保護者と子どもの関係の場合、保護者が攻撃的、子どもは非主張的な自己表現に陥ることが多い」、「そのため子どもは自分の気持ちを理解してもらえないと思ったり、抑え込んだりしてしまうこともある」と指摘する。「だからこそ、保護者は『アサーション』を強く意識することが大切だと強調」している。そこで、保護者がイメージしやすいように自己表現の3タイプを「〇〇ママ」と言い変えて、自分を振り返りやすいようにした（図5-②）。子育てにおける望ましい姿勢として、自他尊重のできるアサーティブな母親を「さわやかママ」としてイメージした。

そして「子どものありのままを受け止め共感」し「自分の気持ちを素直に伝える」ことをコミュニケーションのポイントとして提案した（図5-③、④）。また、子どもへの期待が大きすぎたり、完璧ママを目指すあまり子どもを追い詰めたりすることのないように、平木（2009）が提案する「その子らしさを生かす」ことの大切さも内容に取り入れた。（図5-⑤）



図5 スライド例①



図5 スライド例②



図5 スライド例③



図5 スライド例④



図5 スライド例⑤

3 保護者懇談会や子育て講座の実施および考察

(1) 実践記録1 第1学年保護者懇談会「保護者だって1年生、みんなで話そう子育てトーク」

実施時期：平成22年6月

対象：大野市有終西小学校第1学年保護者22名（母親20名・父親2名）・担任

リーダー：執筆者

ねらい：○保護者同士が知り合いになりましょう。

○担任の先生を知りましょう。

○お子さんの心配事を語り合いましょう。

① 懇談会の経過

主な活動内容	保護者の様子	留意点（準備物）
受付、ネームカードの作成 写真→ 	笑顔の我が子の写真を利用して、楽しく作成していた。	・椅子を円形状に並べておく。 （ネームカード、マジック、児童の写真）
1. 学年委員長、リーダーのあいさつ	リーダーから懇談会のねらいについて説明を聞いた。	
2. アイスブレイク 〈後出しジャンケン〉 リーダーの後に続いてジャンケンをする。 〈1. パースデーライン〉 【感受性の促進】 言葉を使わないで、指やうなずきなどで子どもの誕生日を伝え合い、1月1日から12月31日までの順に並び直して全員で1つの円を作る。誕生日順に並び替わることができたかを確認する。感想を語り合う。	一気に笑いが起こり、会場が和んだ。 身振り手振りで懸命に我が子の誕生日を表していた。 	・保護者会の緊張感を和らげる。 ・間違ってもいいことを伝える。
3. 2人で自己紹介 〈2. ネームカードで自己紹介〉 【他者理解】 隣の人と2人組になりジャンケンをして、勝った人から自己紹介をする。全体の場で自己紹介し合った相手を紹介（他己紹介）する。	相手の名前を間違っではいけないと真剣に聞き合っていた。	・隣の人とうまくペアになれるように配慮する。
4. 担任自己紹介 〈3. クイズ ○○先生ってどんな人?〉 【他者理解】 事前に担任が作った自己に関する○×クイズをする。担任は正解を伝え、それについて簡単に説明する。	担任からクイズが4問出された。全問正解者は2人。担任との固い握手を賞品とした。 	・担任の人柄に触れる。 （○×プレート）

<p>5. みんなで自己紹介</p> <p>〈4. 我が子自慢で自己紹介〉</p> <p>【自己理解・他者理解】 自由に歩き回り、できるだけ多くの人と挨拶をする。挨拶の際、自分の子と自分の名前と我が子のよいところを1つ紹介する。</p>	<p>我が子の自慢でお互いに話が進んでいた。ペアでの話が長くなり、多くの人とは挨拶を交わせなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は「いいですね」と肯定しながら聞く。
<p>6. 子育てトーク</p> <p>〈5. 何が出るかなトーキング〉 【他者理解】 5～6人のグループに別れる。1人ずつカードをめくり、表に書いてあるテーマについて1人1分ずつ話す。1周したら、次の人がカードをめくり話をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強と宿題 ・放課後の過ごし方 ・生活のリズム（早寝・早起き） ・テレビとゲーム ・友達関係 ・その他何でも <p>各グループの司会者が、話題になった内容について発表する。</p>	<p>カードに書いてあるテーマについて順に話をしていた。</p>  <p>司会者が、話題になった主な内容を発表した。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙コップの底にグループ分けのシールを貼った飲み物を配る。 ・第1子の児童の保護者をなるべく分散し、5～6人のグループを作る。 ・言いたくないことは、パスしてもいいことを伝える。 <p>（トーキングカード）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年委員がグループの司会と記録をする。
<p>7. 担任から</p> <p>懇談会の様子や「子育てトーク」の話題について感じたことを話す。</p>	<p>入学して3ヶ月、落ち着いて学習していることや給食をもりもり食べて元気に過ごしていることなどの話を聞いた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要があれば質問タイムを設ける。
<p>8. 振り返り</p> <p>気付いたことや感想を話し合う。 振り返りシートに記入する。</p>	<p>終了時刻が迫ったため感想を話し合う時間を省略した。 振り返りシートに記入した。</p>	<p>（振り返りシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日まとめをお便りで報告した。
<p>9. 学年副委員長のあいさつ</p>		

② 結果と考察

振り返りアンケートは、各エクササイズの満足度（5段階で表す）と自由記述の感想の項目で構成した。このアンケートの結果から実施したエクササイズが保護者にどのような影響を与えたかについて検討した（図6、表6）。途中参加した1名のアンケートは除いた。またすべてのエクササイズについて「あまり楽しくなかった」「楽しくなかった」を選んだ保護者はいなかったため除いた。

〈1. パースデーライン〉

アンケート結果は、「とても楽しかった」16名（76%）、「楽しかった」も合わせると20名（95%）であった。このエクササイズは、面識のない人同士でも非言語で活動できるので、心ほぐしとしても有効であった。誕生日順の円を作り上げたことが分かると歓声が上がリ、一体感が生まれていた。

また、感想表にもあるように、子どもの誕生日が近いと分かり親近感を抱いた保護者もあった。

〈2. ネームカードで自己紹介〉

「とても楽しかった」という回答は14名（66%）、「楽しかった」も合わせると19名（90%）であった。ペアで自己紹介し合ったことは、緊張や不安感が低く取り組みやすかったようだ。しかし、リーダー（執筆者）が順番を間違えて、実際はこのエクササイズでスタートしたために、知り合いのペア同士で紹介し合った保護者が数名いた。その感想の記述者が満足度を「ふつう」と回答している。プログラムの配列への配慮を改めて確認できた。

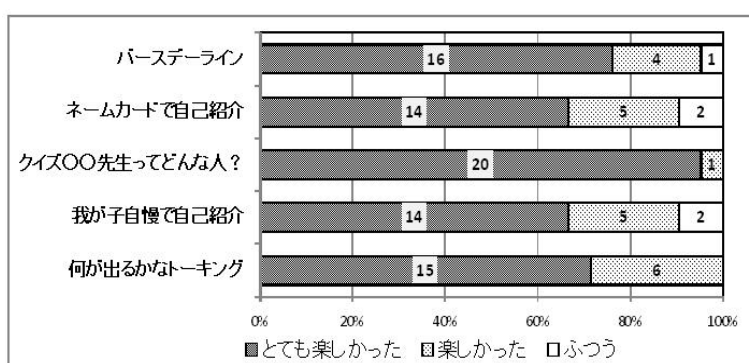


図6 エクササイズの満足度（n=21）

〈3. クイズ 〇〇先生ってどんな人？〉

「とても楽しかった」という回答が20名（95%）と、このエクササイズが本プログラムにおいて一番満足度の高い結果となった。事前に担任自身に関するクイズが4問用意してあり、そのうちの一つで現在の趣味に関するクイズの答えが「絵を描くこと」だった。そのきっかけは中学生の時にある先生から誉められた一言であったというエピソードが語られた。感想にあるように保護者はクイズを通して担任の人柄に触れたようであった。小学1年生の保護者にとっては担任の人物像が気になるころであり、安心感が高まったということであろう。ねらいの一つである「担任の先生を知りましょう」に合致したエクササイズであった。

今回のクイズの内容は担任まかせだったが、保護者の意見にもあるように事前に聞きたいことを調べてクイズにする方法もあるだろう。

〈4. 我が子自慢で自己紹介〉

「とても楽しかった」という回答は14名（66%）、「楽しかった」も合わせると19名（90%）であった。楽しそうに話はずんでいたが、我が子自慢でつい話が盛り上がり、ペアの交代がテンポよく進まず、新しい相手を探せない保護者の姿も見られた。リーダーが「1分で交代する」などの枠をしっかりと設定することで、よりスムーズに流れたであろう。

〈5. 何が出るかなトークキング〉

「とても楽しかった」という回答は15名（71%）、「楽しかった」も合わせると21名（100%）であった。このエクササイズも満足度が高かったことを示している。感想にもあるように、話合いのテーマがあったことと、カードを引いたら一人ずつ話し合うという設定にしたことが、保護者の満足度の高まりにつながったのであろう。あまり面識がない集団の集まりでは、自由に懇談するよりも一人ひとりの発言を保障するほうが安心感がある。「お子さんの心配事を語り合いましょう」というねらいにせまるエクササイズであった。

話合いの内容では、入学するにあたっての保護者意識調査の上位に上がった項目「いじめにあわないか」の相談は無かった。子どもたちが友達もできて楽しく学校生活を送っていることの表れであろう。行動範囲が広がり、放課後の遊び方についての話題が出たくらいである。むしろ、登校準備の心配事が出され、その悩みは我が家だけではないのだと分かることで安心した保護者もみられた。

表6 エクササイズの感想

1. パースデーライン

声を出せない分、本当に相手の表情をしっかりと見て意思疎通を図った気がする／うちの子は早生まれなのでい

ろんなことが遅れがちだが、わりと近い月齢のお子さんが多くこれからも話ができそうだ

2. ネームカードで自己紹介

相手の名前を間違っではいけないと真剣に聞き覚えた／座席をシャッフルしたところでやりたかった／知り合い同士がかたまっていたので…

3. クイズ ○○先生ってどんな人？

先生への親近感がより一層もてた／先生の人柄が少し分かり我が子を預ける安心感が増した／先生の内面が見られたような気がする、一言を大切にしたい／事前に聞きたいことをアンケートなどと良かったのではない

4. 我が子自慢で自己紹介

自分の子どもの自慢なんてふだんあまりしないので新鮮だった／我が子のことを話す時のお母さん（お父さん）はうれしそう／もっとたくさんの人と話したかった

5. 何が出るかなトーキング

カードを引いて話すということが緊張せずできてよかった／初めての子なので、遊びのことや学校のことなど、ふだんよそのおうちではどんなことをしているかなど聞けてよかった／その前のいろんなエクササイズのおかげで少し慣れた雰囲気です話ができ話しやすかった／他の家も同じなんだと分かり少し気持ちが晴れた

〈懇談会に参加して〉

「懇談会に参加して有意義だったか」の結果は、ほとんどの人が「とても有意義だった」と回答し満足したようだ。本プログラムは、入学間もない保護者の「出会い」と「ふれあい」のきっかけづくりになったようだ。感想にもあるようにこの「出会い」をきっかけに保護者同士がさらに仲良くなることを期待したい（表7）。

表7 懇談会の感想

知らないお父さん、お母さんとの交流が持てて楽しかった／男2人だけでお母さん方の中での参加でしたが浮くこともなく楽しくできた／もう少し父親の参加者が多ければと思った／今日のこの時間がきっかけで保護者同士が仲良くなればうれしい／子どもにかかわる心配事もお話しできて本当に良かった、またこういう機会があれば参加したい

担任から「保護者同士がにこやかに話している様子から、ふだんの保護者の表情を見ることができて、親近感が持てた」という感想があった。担任にとっても、保護者との「ふれあい」は今後の保護者対応にも良い影響を及ぼしたようだ。

ただ、夜に開いたため全員参加とはならなかった。保護者の参加を促すために児童も一緒に来校し、懇談会中、別室で過ごすなど、工夫の余地があるだろう。

(2) 実践記録2 第1学年PTA行事「親子レクリエーション（ミニ運動会）」

実施時期：平成22年11月

対象：大野市有終西小学校第1学年児童・兄弟・保護者（総勢約90名）・担任

リーダー：PTA学年委員（9名）・執筆者

ねらい：○子ども、保護者同士が知り合いにならしましょう。

○仲良く一緒に遊ばしましょう。

構成と内容：PTA学年委員との打合せで、SGEのエクササイズとレクリエーションを効果的に構成した。

① ミニ運動会の経過

主な活動内容	児童・保護者の様子	留意点（準備物）
1. 〈1. アウチでよろしく〉 【信頼体験】 児童と保護者が自由歩行をしているいろいろな挨拶をする。 レベル1「アウチ」 レベル2「よろしゲー」 レベル3「ハイタッチ」	児童と兄弟、保護者が入り交じって挨拶を交わしていた（全員参加）。 	・児童と保護者の緊張感を和らげる。
2. 〈2. ジャンケン列車〉 【自己理解・他者理解】 ペアでジャンケンをし、負けたら相手の肩につかまる。最後には1列の列車になる。	児童と兄弟、保護者が楽しそうにジャンケンをしていた（全員参加）。	
3. 新聞紙リレー 【レクリエーション】	親子競技（親子ペア）	
4. ヤクルト飲み競争 【レクリエーション】	児童競技（児童）	
5. 〈3. なんでもバスケット〉 【自己理解・他者理解】 保護者が椅子代わりになって車座になり児童がその中で活動する。席を移動したら、互いに挨拶を交わす。	児童は嬉しそうに他の保護者の膝に座っていた（親子ペア）。 	・鬼になった児童のそばに学年委員の保護者が付き添い補助をする。
6. 玉入れ 【レクリエーション】	色別対抗戦の親子競技（親子）	
7. 氷おに 【レクリエーション】	子ども対親でのおにごっこ（親子）	

② 結果と考察

参加者が多く活動に時間制限があったことと、レクリエーションの合間にエクササイズを取り入れたこともあり、事後アンケートはとらなかった。児童と保護者の様子や担任の感想から検討する。

〈1. アウチでよろしく〉

保護者は積極的に挨拶を交わしていた。日ごろはなかなか顔を合わせることの少ない父親同士が集まる場面もあった。担任も「お父さん方と挨拶をさせてもらえてよかった」と述べている。「10人の人と挨拶をしよう」と指示を出したが設定時間が短かった。改善点としては、家族単位で行動して挨拶をし合う方法もある。

〈2. ジャンケン列車〉

体育館中を動き回れるので、児童は実に生き生きとジャンケンをしていた。保護者も児童も幅広い交流を図ることができた。このエクササイズを「アウチでよろしく」より前に設定した方が、児童の抵抗感は少なかったのではないかと考える。

〈3. なんでもバスケット〉

児童は恥ずかしがることなく他の保護者の膝に座ることができ、実にほほえましかった。空席を見つけれずにきよろきよろしている児童に、「おいでおいで」と手招きしている保護者も見られた。他の児童を座らせることに抵抗なく、むしろ座ってもらうことが心地よさそうだった。座った児童が後ろを振り向き、互いに自己紹介をした。このエクササイズはとても好評だった。担任からは「人間

椅子となってだっこをすることが子どもを落ち着かせ、和やかだった」との感想を得た。

(3) 懇談会およびミニ運動会実施後の追跡調査

懇談会に参加した22名の保護者を対象に11月に追跡調査アンケートを実施した。

① 結果と考察

質問項目2点とそれぞれの自由記述の感想で構成した（図7、表8）。「保護者の知り合いは増えたか」という質問に対し、「とても増えた」と「まあまあ」を合わせて16名（73%）だった。

1回のみ懇談会で劇的に知り合いが増えることは期待できないが「挨拶したり、子どものことを話したりするようになった」という感想から、懇談会が保護者の関係づくりにおける良いきっかけとなり、数ヶ月間で保護者同士のふれあいの輪が広がったものと推察する。

「担任に対する親しみはどうか」という質問に対し、「とても距離が近づき、親しみを感じている」と答えた保護者が12名（55%）、「まあまあ」を合わせて19名（86%）という結果だった。担任が自己開示し教育信条を理解してもらったことが、保護者との信頼関係の構築につながったのであろう。

「先生から私たちに対して心を開いてくれていることがよく分かり、こちらも親しみやすくなった」という記述からも読み取れる。もちろん、日ごろの担任の指導に対する信頼も重要な部分を占めることは言うまでもない。これまでの授業参観などで見られた担任の熱意や、学級のまとまりのよさ、子どもから実際に聞く学校生活の満足感などから保護者が抱いた信頼などもあるだろう。

担任に保護者懇談会やミニ運動会の有効性を尋ねたところ、「とてもよかった。1年生のスタートから和やかなPTA活動ができ、今後につながっていくと確信した。ミニ運動会の時は、学年委員さんたちが協力し合って運営にあたってくださった。これも一つの成果だと思う。」との回答を得た。今回試みた保護者への積極的アプローチが、保護者間の協働意識の芽生えにまで至ったと担任が感じ取ってくれたようである。

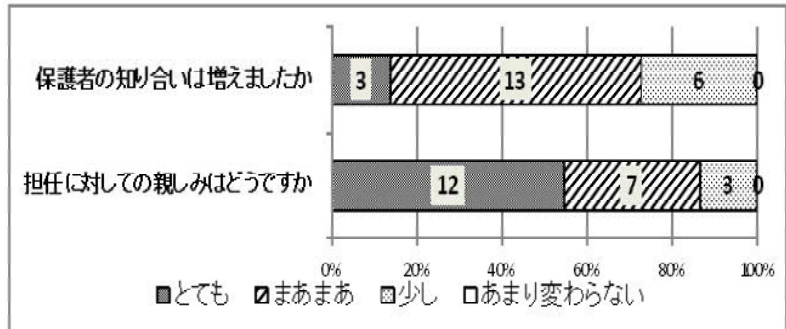


図7 追跡調査アンケート結果 (n=22)

表8 追跡調査アンケート感想

1. 保護者の知り合いは増えたか

町なかで会ったときなどに、挨拶したり子どものこと（学校や家での様子など）を話したりする／自分から話しかけることが苦手だが、子育てトークで話した保護者の方が話しかけてくれるのでとてもうれしく思う／今回のミニ運動会でも子どものことで話すことができた、保護者懇談会に行かなければそんなこともなかった

2. 担任に対する親しみは

私たちが小学生のころは先生一人しかいなくてそれを大変と子どもながらに感じていなかったが、時代とともに親や子の考えも変わり先生の苦勞をとて感じた／先生から私たちに対して心を開いてくれていることがよくわかりこちらも親しみやすくなった、なんでも相談してもいいんだなあと思った／親しみを感じると同時に信頼度がアップした／気兼ねなくなんでも相談できる先生だ

(4) 実践記録3 保育園子育て講座「もうすぐ1年生、親子で一緒に大きくなあれ！」

実施時期：2010年11月

参加者：開成保育園年長組保護者16名（全員母親）・保育士

講師：執筆者

ねらい：○入学を控えたお子さんの心配事を語り合ひましょう。

○親と子のよりよい関係づくりについて考えてみましょう。

① 懇談会の経過

主な活動内容	保護者の様子	留意点（準備物）
1. 講師のあいさつ	講師（執筆者）から懇談会のねらいについて説明を聞いた。	
2. アイスブレイク 〈そろって拍手〉 ボールを上へ投げ、宙に浮いている間拍手をする。	フェイントをかけられ、思わず拍手して笑い合っていた。	・保護者の緊張感を和らげる。
3. グループ分けエクササイズ 〈1. 仲間集まれ〉【他者理解・自己理解】 好きな飲み物で仲間を探しグループを作る。 入学予定の小学校でグループを作る。	好みの合う者同士楽しく集まっていた。 	・5～6人のグループになるように調整する。
4. 子育てトーク 〈2. 小学生なりきり自己紹介〉【他者理解】 自分が小学生のとき、好きだったテレビ番組やキャラクターを伝える。 〈3. 何が出るかなトーキング〉【他者理解】 一人ずつカードをめくり、表に書いてある内容について、1人1分ずつ話す。1周したら、次の人がカードをめくり、話をしていく。 ・宿題（いつしている？） ・学校生活（給食・トイレ・入学準備物） ・生活（生活リズム・明日の準備） ・友達関係（友達・いじめ） ・その他何でも 各グループの司会者が、話題になった内容について発表する。 講師が助言をする。	互いに昔の番組やキャラクターを振り返って思い出話をしていた。 カードをめくり、その話題について話し合った。にこやかに談笑しているところや、真剣に話し合っているグループもあった。  真剣に話を聞いていた。	・聞き手は「いいですね」と肯定しながら聞く。 ・言いたくないことは、パスしてもいいことを伝える。 (カード) ・保育士が一人ずつグループに入り司会と記録をする。
5. 講義 〈4. 親と子のよりよい関係づくり〉 アサーションをテーマとした親と子のよりよい関係づくりについて話を聞く。		
6. 振り返り 振り返りシートに記入する。	振り返りシートに記入した。	(振り返りシート) ・後日まとめをお便りで報告した。

② 結果と考察

(1)の②同様、保護者の振り返りアンケートから、実施したエクササイズと講義が保護者にどのような影響を与えたかについて検証した（図8、表9）。

〈1. 仲間集まれ〉

「とても楽しかった」という回答は12名（75%）だった。「好きな飲み物」というテーマから、普段とは違う構成のメンバーで集合していた。集まった後、「どんなワインが好きか」など飲み物の種類の紹介などで話が弾んでいた。しかし、一部の飲み物に偏る結果となり、グループによって紹介する時間に差が出てしまった。テーマの選択を吟味する必要がある。「入学予定の小学校」で集まる二つ目のテーマでは、それぞれが学校名を言いながら積極的に集合していた。

〈2. 小学生なりきり自己紹介〉

「とても楽しかった」という回答は9名（56%）、「楽しかった」も合わせると14名（88%）であった。自分が小学生のときに好きだったテレビ番組を思い出すことに苦労している保護者もいたが、各自の子ども時代へのちょっとしたインナートリップ体験となっていたようだ。

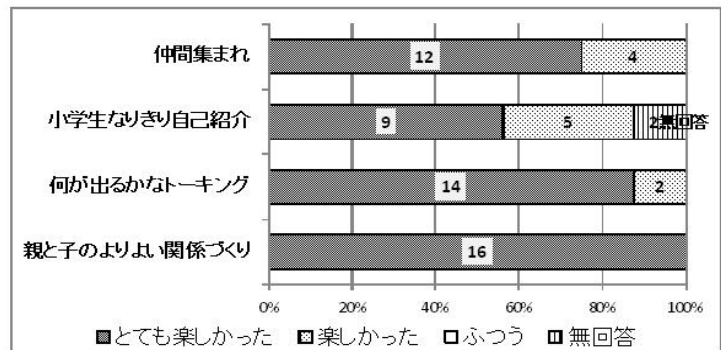


図8 エクササイズと講義の満足度（n=16）

〈3. 何が出るかなトーク〉

16名中14名（88%）が「とても楽しかった」と回答し、感想も大半が記述しており、満足度の高かったエクササイズである。本エクササイズの効果は感想から読み取れた。まず、入学予定の学校グループに分けたことで仲間意識が芽生えていた。そして、先輩保護者からアドバイスがもたらえたことは第1子の保護者にとって大きな励みになった。さらに、心配な気持ちを語り合い共感できたことで不安感を軽減できた保護者がいた。

本園から別の小学校に1人だけで入学する保護者が4名いたので一つのグループにまとめた。たまたま全員が第1子の保護者であり、不安感がとても強いようで一人ひとりが涙ながらに心配事を話し出した。リーダーとしてこのグループに介入する必要があると感じ、一緒に話を聞いた。「市外の小学校に入学するので不安だ」「保育園で仲よかった友達と分かれるのが不安なようだ」などの声があがった。そこで筆者は、「初めての子どもの入学は親の不安が大きい。子どもは案外たくましく、まずは隣の席の子と仲良くなることが多い。親の不安が子に伝わるので、『何とかなるよ、大丈夫だよ』とどんと構えているといい」とアドバイスをした。

本音で語ってくれた保護者に対してねぎらいの言葉をかけるとともに、保護者の自己開示が深くなったようなので、保護者に「今日聞いた話はここだけの話に留めましょう」と伝え、プライバシーが守られるように配慮した。

〈4. 親と子のよりよい関係づくり〉

全員が「とても楽しかった」と回答した。講義内容が年長組の保護者に共感できるものだったようだ。平木が「親と子の関係のように、役割の違いや力の差がある関係では、アサーションを強く意識する必要がある」と述べている点子が子育て中の親の心に強く響いたのであろう。さらに、アサーティブ（自己尊重）な表現方法を目指そうという提案を「さわやかママ」になろうと言い変えたこともイメージしやすかったものと思われる。

表9 エクササイズと講義の感想

<p>1. 仲間集まれ 緊張がほぐれた／共感をもてる人と集まると安心だ</p> <p>2. 小学生なりきり自己紹介 自分の子どものころを何十年かぶりに思い出し楽しかった／久しぶりに子どもの緊張が分かった</p> <p>3. 何が出るかなトークング 心配していたことが相談し合えて参考にさせてもらったのでよかった／ゲームに取り組んでから話し合ったので心が開き話しやすかった／同じ学校に行く親同士とあって親同士が親近感をもっていた／2人目なのであまり大した心配がなかったが、1人目のときのことなども思い出し他のお母さん方にいろいろ伝えることもでき楽しかった／ズバリ！聞きたいことのカードばかりでグループワークしやすかった／心のためにいたものがドーンと涙として出てしまったが話せて先生にアドバイスをもらい安心した／学校に行くのが園から一人ですごく心配だったが誰にも言えずにいたので話せただけでも楽になった</p> <p>4. 親と子のよりよい関係づくり（講義） 正論でも理屈でもなく…ガミガミママを反省した／子どもの気持ちを受け止めるママになろうと思えた／ためになることや見直しをさせられることも多く、早速明日から「さわやかママ」を目指したい</p>
--

〈子育て講座に参加して〉

「子育て講座に参加して有意義だったか」の結果は全員が「とても有意義だった」と回答した。感想に「小学校という新しい世界に入るという事への不安な気持ちはみんな同じなんだ」とあるように、ふだん言えなかった気持ちを互いに話して共感できたことや、これからの子育てで親がどうあるべきかヒントをつかんだことなどから、充実感を得たのであろう（表10）。

保育士からは「保護者が自分の思いを素直に表出していて、とてもよい時間になった」「保護者は子ども以上に不安を持っていることが分かった。保育士もその不安に同調するのではなく、『大丈夫だから』と送り出してあげたい」という感想があった。保育士と一緒に参加し保護者の心配事を理解したことで、子どもを送り出す立場からの心構えを再確認していたようだった。

表10 子育て講座の感想

小学校という新しい世界に入るという事への不安な気持ちはみんな同じなんだと少し安心した／子どもに不安を与えないためにもまずは自分が大丈夫と接してあげないといけないと思った／参加してよかった！！／ふだん言えない事が言え他の方の話も聞けてすごくよかった／私が不安がっているのも子どもが不安なんだ、笑ってしよう

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究の成果

- (1) 入学間もないころ、SGEを活用した保護者懇談会を実施したことは、保護者同士や保護者と教師の間の和やかなりレーションを作ることができ、保護者支援の方法の一つとして可能性があることを確認できた。
- (2) 入学にあたり、学校や園が講義形式で一方向的に説明するだけでなく、保護者が集い互いに悩みを話し合ったり先輩保護者にアドバイスをもらったりする参加型の場を設定する支援も必要であることが分かった。
- (3) 小学1年の保護者には、教師との「ふれあい」の場を設定し担任の人物像を理解してもらうことが、保護者の安心感を高めることが分かった。
- (4) 保育園の保護者は、第1子が新しい世界に入ることへの不安感が特に強い。安心して心配ごとを話

せる保護者会を工夫し、加えて小学校側から「大丈夫ですよ」と声をかけることが有効であることが分かった。

- (5) 保護者にアサーションをテーマとした「親と子のよりよい関係づくり」を提案したことで、子どもに過度の期待をかけず、「その子らしさを生かす」ことの大切さが意識づけられた。
- (6) 保育士と教師が連携して保護者支援をすることは、保護者の不安感の共通理解を深めるだけでなく、今後の予防的対応を高め得ることが分かった。

2 今後の課題

- (1) 保護者が無理なく参加できる体制を考慮する必要がある。例えば、これらの保護者支援を就学時健康診断や入学説明会など比較的保護者の出席率の高い機会を利用することも可能である。また、授業参観で親子のふれあいを図るエクササイズを取り入れることもできるだろう。
- (2) 小学校の教師が直接園に赴き、保護者だけでなく園児と交流する機会をもつことも保護者支援の一つとして有効であろう。
- (3) 福井県教育委員会は平成22年10月25日に「保幼小連携・就学前教育に関する懇話会」を開催した。保育園と幼稚園、小学校の三者および県教育委員会の関係者が相互の円滑な接続への課題について認識を深め、望ましい連携や今後の就学前教育の在り方について話し合った。行政からもさらなる支援を期待したい。

最後に、本研究に当たり、研究協力員として協力していただいた大野市有終西小学校の松田尚美先生、要請訪問研修に行かせていただいた大野市開成保育園の皆様方に心より感謝申し上げます。

《引用文献》

- 文部科学省・厚生労働省（2009）『保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集』
- Benesse教育研究開発センター（2008）『第3回子育て生活基本調査 幼児版』
- 平木典子（2009）『子どものための自分の気持ちか〈言える〉技術』PHP研究所 p.25、48、49
- 平木典子（2010）「新学期を順調にスタートするために」『一步先の教育環境論・BenesseCard通信4月号vol.59』株式会社ベネッセコーポレーション

《参考文献》

- 大窪裕喜恵（2009）『保育園のクラス懇談会ベストプラン』ほんの森出版
- 厚生労働省（2008）『保育所保育指針』
- 國分康孝（1999）『エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集』図書文化
- 國分康孝（1996）『エンカウンターで学級が変わる 小学校編』図書文化
- 國分康孝（1999）『エンカウンターで学級が変わる 小学校編 part3』図書文化
- 國分康孝（2000）『エンカウンターで総合が変わる 小学校編』図書文化
- 國分康孝 國分久子（2004）『構成的グループエンカウンター事典』図書文化
- 國分康孝 國分久子（2009）『エンカウンターで保護者会が変わる 小学校』図書文化
- 平木典子（2009）『子どものための自分の気持ちか〈言える〉技術』PHP研究所
- 平木典子（2010）「新学期を順調にスタートするために」『一步先の教育環境論・BenesseCard通信4月号vol.59』株式会社ベネッセコーポレーション
- 福井県教育委員会『保幼小連携・就学前教育に関する懇話会』（2010）資料
- 文部科学省（2008）『小学校学習指導要領』
- 文部科学省（2008）『幼稚園教育要領』